

長野県下伊那郡豊丘村方言の否定の表現

今村 かほる

I. はじめに

- (1) 調査対象地：長野県下伊那郡は長野県の最南部に位置し、東は静岡県、西は木曾郡と岐阜県、北は上伊那郡、南は愛知県と接している。その中央部を天竜川が流れ、その兩岸に河岸段丘を形成している。文化的・商業的發展の中心は、歴史的にも現在も城下町の飯田市（人口約107,000人）を中心とした川の西岸で、主要な国道の151号線・153号線・中央自動車道西の宮線のほかJR飯田線も西岸を通っている。豊丘村は、天竜川の東岸にある人口約7,200人の村で、古くは養蚕の盛んな地域であった。平成2年の産業別人口の割合は、第一次産業32% 第二次産業38% 第三次産業30% となっている。下伊那郡の平均が、それぞれ23.8%、38.3%、37.9%であるのと比べると、第一次産業就業人口が多い。＜¹⁾主要作物は米・果樹・蔬菜などで、農業立村を目指している。
- (2) 調査年月日：1995年8月13日 午後1時～3時20分
- (3) 話者：岩崎勝臣 大正10年2月1日生（74歳）
- (4) 調査者・調査場所：今村かほる、話者宅
- (5) 調査方法：統一調査票による質問調査
- (6) その他：①アクセントは、高い部分を線で記した。
②回答のしかたについての注記は《誘導》《考えて》など《 》でくくって記した。
③話者からの言語情報、回答に関するコメント、また筆者自信の内省や話者のコメントなどは回答の後に * をつけて記した。

II. 調査結果

II-1 動作・作用の否定表現

1. 行かない ○アメガ フリソーダデ キョーワ ドッコエモ イカン
2. 降らない ○キョーワ アミャー フランゾ
* <女性はフランニという言い方をする>
3. 行きません ○キョーワ ドッコエモ {①イカン ②イクマセン《誘導》}
4. 行きはしない ○キョーワ ドッコエモ イカンゾ
* <自分の意志を表すのに、少し強めた程度ではイキヤセンとは言えない。けんかしたときや強く言い張るときなど、非常に強く意志を表す場合に言う。一方、事実として述べる場合には用いる。>
5. いらっしやらない ○センセーワ キョー ドッコエモ {①オイキン《誘導》
②オイデン《誘導》}

*筆者の祖母（生きていれば80代だが60代で他界した）を例として挙げ、昔の女の人が丁寧な言葉として使っていたとのコメントあり。

6. 行ななかった ○オラーワ ドッコエモ {①イカナンダ ②イカナカッタ
③イカンカッタ<若>}
7. 行きはしなかった ○ドッコエモ {①イカナンダ ②イキャーセンンダ《誘導》
<古> ③イキャーセンカッタ《誘導》<若>}
8. 行くまい ○アメガ フリソーダデ ドッコエモ イカン
9. 出まい ○キョーワ ドッコエモ {①デマイ<考えて> ②デン}
10. すまい ①シゴトワ {①オワリダ ②ヤメダ} / ②キョーワ モー {①シン
②セン}

*<~マイは、高年層ではいわゆる未然形に、若年層では主として連用形について勧誘を表すので、シメーのような言い方は「しよう」のあたる。一般的に否定の意志にはいわゆる否定形が用いられ、マイは用いられない。>

11. 降らないだらう ○キョーワ アミャー フランラヨ

*<~らは、高年層から若年層まで広く用いられている語形である。共通語の「だろう」に対応する、話し手の経験や知識に基づいた「内的推量」だが、その拠りどころ顕在化させる意識をもっていない。ただし、自分に外側にある根拠を拒まず、内側に取り込むことも可能である。>²²

*<~ら以外に~ズラとダラがあるが、~らとは違いがある。~ズラと~ダラは共通語の「のだろう」に対応し、高年層が~ズラを若年層が~ダラを使用するという世代差がある。用法は、ある場面において、その事柄・原因・理由などの状況を説明する「説明推量」である>³³

12. 降るにちがいない ○アシター アメガ フルニ

*<女性は、アシター アメガ フルニ のように言う>

13. 来ない ○キョーワ ダーレモ コン

14. 来はしない ○キョーワ ダーレモ {①コン ②クリャーセン《誘導》}

15. 来ななかった ○キョーワ ダーレモ {①コナンダ ②コンカッタ<若>}
16. 見ない ○キョーワ ダーレモ {①ミエンナー ②ミンナー}

*<ミエンナーは、(人影が)見えないの意味で、敬意は含んでいない>

17. 居ない ①ダーレモ キトラン / ②ダーレモ オラン

18. 行かずに ○ドッコエモ {①イカナンダ ②イカナシニ<古> ③イカンデ
④イカナッコ<中年以下> ⑤イカッコ《誘導》<中年以下> ⑥イカズニ《誘導》} ウチー オッタ

*<当該方言では、ズニは口語で日常的に用いられているが、話者は質問文のズニの部分をズニ以外の語形に言い替えようと配慮したらしいので、ズニを誘導

してきいてみた>

19. 行かなくても ○ワザワザ {①イカナンデモ ②イカンデモ ③イカデモ<古
④イカクタッテ ⑤イカククタッテ《誘導》<若> ⑥イカクテモ《誘導》
<若>} イーワ

20. 行かなければ ○ワザワザ {①イカニャー ②イカンケリャ《誘導》<若>}
ヨカッタ

21. 行かねば ○アシタワ ドーシテモ {①イカニャーナラン ②イカンナラン}

22. 行かねばならない ○アシタワ ドーシテモ {①イカンナラン ②イカニャー
ダ}

*<岩崎氏は使用しないが、若年層にはこの他に イカククチャダとイカンキヤダ
<女>という言い方がある。>

23. ~ズ (ヤ・ジャ・ダ) 行カズヤ・イカズジャ・イカズダとは言わない

*<調査時に調査者が質問意図の把握が充分でなかったため、何を指すのかわか
らなかったが、一日を振り返って「今日はどこへも行かなかったなあ。」という
ような場合には、ドッコエモ イカズダッタナーのように用いることができ
ると思われる>

24. 行きもせず ①コッチカラ イキモセズ キモセン/②コッチカラ イキモセン
シ キモセン/③コッチカラ イカンシ アッチカラ キモセン

25. 行くか行かないかわからない ○アシタ イクカ イカンカ ワカラン

<補記>

①No. 11の推量に関しては、「大学にうかるだろう」を例にして説明を補うと、「ウカル
ラ」は、特に推量の根拠がなくても話し手はそう信じているという判断の表明になる。
これは一種の社会的推量表現である。それに対し「ウカルンズラ」は、「ズラ」はよ
りかかるべき根拠（この場合は受験生の成績などの詳しい情報）によって説明的に推
量する。だから、自分はどうなるのかわからない（或いはうからない）と思っている
場合にも、説明的に推量として成り立つ。それが得られようもないこの例などでは、
たとえ合格することに肯定的であっても、話し手の主観的な判断を投げ出して、具体
的でない理由・根拠を推量の前面に押し出した無責任な推量ととらえられる。

②「ないで」「なくて」にあたる言い方は、No. 18・19にみられるように多数存在するが、
後接形式による用法差や世代差がある。以下、例を挙げて説明する。

共通語形	高年層	若年層
1 行かないで (依頼)	イカナンデ<古> イカンデ	イカナンデ<少> イカンデ<多>
2 行かないでしまった	イカナンジャッタ	イカナンジャッタ

3 行かないでいる	イカナンドル イカ ^ナ デオル イカズニオル イカナシ(ニ)オル	イカナンドル<古・少> イカ ^ナ デオル イカズニオル イカナシ(ニ)オル<古・少> イカナッコオル イカ ^ナ ッコオル
4 書かないでほしい (希望)	カカ ^ナ ンデ カカ ^ナ ンデ	カカ ^ナ ンデ<古> カカ ^ナ ンデ
5 書かないでほしい (状態)	カカ ^ナ ンデ カカ ^ナ ンデ カカナシ (ニ)	カカ ^ナ ンデ<古> カカ ^ナ ンデ カカナシ (ニ) <古> カカ ^ナ ッコ カカナッコ
6 行かなくなる	イカ ^ナ ンヨ一ニナル	イカ ^ナ ンクナル
7 行かなくても……	イカ ^ナ ンデモ<少> イカ ^ナ ンデモ<多> イカ ^ナ デモ<古><少>	イカ ^ナ ンデモ<少> イカ ^ナ ンデモ イカ ^ナ ンクテモ

例1は「まだ行かないで。」と依頼する場合で、「ないで」にナンデとンデが対応する。

例2は「今年はどうとう、初詣に行かないでしまった。」、例3は「まだ行かないでいる。」のように、「ないで」にアスペクト形式が後接する場合であるが、例2は共通語では殆どみられない。

例4は「この記事は書かないでほしい。」と話し手の否定的希望を表すような例で、後接の「ほしい」はいわゆる補助動詞の場合である。これに対し、例5は、「この欄には書かない(状態)でほしい。」のような例で、後接の「ほしい」は本動詞の場合である。

例6は、「あまり人が行かなくなる。」のような例、例7は「いいよ、行かなくても」のように倒置した場合や、「何も今日行かなくても…」のように言いさす場合などに用いられる「ない」が「なく・なくて」と活用する例だが、いずれも別な語形に置き換える。「赤くなくなる」のように形容詞に下接する場合は、ナクと活用する。若年層には、「なく・なくて」を直接方言内に取り込んだ「ンク・ンクテ」がみられる。

II-2 存在・状態・判断の否定表現

26. 無い ○コレッキリシカ ネー

27. 無い ○コトシノヨ^ーニ アツイトキ^ャー ネ^ーナー
28. ありはしない ○コトシノヨ^ーニ アツイトキ^ャー {①ネ^ーナー ②ア^リャー
セ^ン
29. 無かった ①コンナコ^{ター} ネ^ーナー ハジメテダ^ワ／②コンネ^ン アツイトシ^ワ
ナカッタ^{ナー}《誘導》
30. ありはしなかった ○イママデ^ニ コンネ^ン アツイトキ^ャー {①ア^リャーセ^ン
ナ^ンダ ②ア^リャーセ^ンカ^{ッタ}《誘導》<若>}
31. 無いだらう ○コレカラサ^キ モ^ー ネ^ーラ
32. 無ければ コンネ^ン アツイトキ^ャー {①ナケ^ニャ<古> ②ナケ^リャ
イ^{ーン}ダ^ニ
33. 暑くない ○キョ^ーワ アンマ^リ アツクネ^ーナー
34. 暑くはない ○キョ^ーワ アンマ^リ アツカネ^ーナー
35. 暑くなかった ○キョ^ーワ ソンネ^ン アツクナカ^{ッタ}ナー
36. 暑くはなかった ○キョ^ーワ アンマ^リ アツカナカ^{ッタ}
37. 暑くないだらう ○アシタ^モ アツクナ^イラ
38. 涼しくない ○キョ^ーワ アンマ^シ ス^ーシクネ^ーナー
39. にぎやかでない ○アンマ^リ ニ^ーヤカクネ^ーナー
*ニーヤカイは< [nijijakai] のように発音される>
40. にぎやかではない ①アンマ^リ ニ^ーヤカジャ^ーネ^ーナー／②サミシ^ーナー
41. にぎやかでなかった ○アンマ^シ ニ^ーヤカクナカ^{ッタ}
42. にぎやかではなかった ○アンマ^リ ニ^ーヤカジャ^ーナカ^{ッタ}ニ
43. にぎやかではなからう ○ハイ モ^ー ニ^ーヤカジャ^ーネ^ーナー<考えて>
44. 花ではない ○ア^リャー ハナジャ^ーネ^ーニ

II-3 特定の慣用句による否定(不可・禁止)表現

45. だめだ ①イクラヤ^{ッタ}ッテ ショ^ーネ^ー／②イクラヤ^{ッタ}ッテ ダメダ^ニ
*筆者(1964年生まれ)の子供の頃、「そんなことをしてはだめだぞ」のだめだ
ぞにあたるダ^{チャ}カンゾ^ーという語を聞いたことがあるが、今はあまり耳にしない
46. だめな ○アイツ^ァー ダメナヤ^ツダ^{ナー} ショ^ーネ^ーワ
47. つまらない ①ツマランコ^トー ユ^ーナ／②ツマランコ^ト コク^ナ
*<ユ^ーに対してコクは卑罵表現>
48. いけない ①ソンナ^トコ イ^ッチャ^ー イカンゾ^ー／②ソ^ッチエ イク^ト アブ^ネ
ーゾ
49. 行カレン 行カレンとは言わない

50. 行くな ○ソソナトコエ イクナヨ
51. するな ①イタズラ スルナ／②ヤンカラ シチャー イカンゾ／③ヤンカ セ
 ナヨ《誘導》
 ＊＜セルナ・センナという言い方は、岩崎氏と同年代以上の世代で用いられてい
 るが、若年層では一般的でない＞
52. 行くもんじゃない ○ソソナトコエ イクモンジャーネーゾ
53. たまらない ○コリヤー アツクテ タマランワ
54. しかたがない ○ヤムノーマットッテモ ショーネーラ
55. 楽ではない ○トクマデ イクナー ラクジャーネーナー
56. 歩きたくない ○トクマデ アルキタクネーナー
57. 大丈夫だ ○シンパイセンデモ イーワ ダイジョーブダ

II-4 否定の応答表現

58. いや ○インネ コッチワ フラナンダ《誘導》
 ＊＜インネは現在は女性が多く用いる語形のように思われる＞
 ＊＜アクセントはインネ・インネがある＞
59. いや ○インネ フラナンダ
60. いいえ ①インニャ フラナンダ（昔言った）／②インニャ フリマセナンダ
 《誘導》
 ＊インニャは、昔言ったとのコメントあり
 ＊フリマセナンダは（現在80代位の昔の女性が使った）とのコメントあり
61. いや ①降った場合 ウン フッタニ
 ②降らなかった場合 インネ フラナンダニ
62. どういたしまして ①ドーイタシマシテ《誘導》／②イーエ トンデモナイ

II-5 不可能の表現

63. できない ○ソソナコター トテモ デキンニ
64. 読むことができない（状況） ○クライデ {①ヨメンナー＜多＞ ②ヨメン
 ナー＜少＞}
65. 読むことができない（能力） ○マダ チーサイデ {①ヨメン＜多＞ ②ヨメ
 レン＜少＞}
66. 出られない ①ハデナフクダデ ハズカシクテ イケン／②ハデダデ デレン
67. 食べられない ○コノキノコワ ドクダデ タベレンニ
68. 食べることができない ①イソガシクテ タベトレン／②イソガシーデ オヒル

モ タベレンナー

II-6 反語・反発の強調表現

69. 知るものか ○ソ^ナナ^コト オレ^ワ シ^ラン^ゾ
70. 誰が行くものか ①ソ^ナナ^トコエ オラ^ー イカ^ンゾ / ②ソ^ナナ^トコエ イク^モン^カ
* <筆者の父（生きていれば現在60歳）は、ダレ^ガ イカ^スケ<男>またはダレ^ガ イカ^スカという言い方をしていたが、確認するのを忘れてしまった。>
71. なんで行くか ○ソ^ナナ^トコ イカ^スカ《誘導》
* イカ^スカは<行くものか、行くわけがないという反語の意味で用いられる>
72. なんで恥^ずかしいものか ○ナ^ンデ ハズ^カシー^ンダ《疑いながら》《上昇調》
* <ナン^デ ハズ^カシー^コトガ^アラ^スカと言えそうだが、確認をしなかった>
73. 行かないでおるものか ○オレ^ワ イク^ゾ
74. やれるか ○オマ^エニ デキ^ルカ《上昇調》
75. シテ^イラン シテ^イランとは言わない ○イヤ^ダッタ^ラ セン^デモ イ^ー

II-7 特定の副詞の関わる否定表現

76. 少しもはかどらない ○ア^ツク^テ チ^ツト^モ シ^ゴト^ガ ハカ^ドラン^{ナー}
77. ぜんぜんできてない ○ゼ^ンゼ^ン デキ^トラン^{ナー}
78. いっこうに降らない ア^メガ {①ゼ^ンゼ^ン ②チ^ョツ^トモ} フ^ラン
79. あまり降らない ○コ^トシ^モ アン^マリ フ^ラン^{ナー}
80. (予想外に) たくさん ○イ^モガ デ^ーブ ト^レタ

II-8 その他否定形式の関わる諸表現

81. いいではないか ○ワ^ザワ^ザ イカ^ンデ^モ イ^ージャ^ネー^カ
* イカ^ンデ^モの部分はN0.19行かなくてもを参照
82. いいのではないか エ^ーノ^ント^チャウ^カとは言わない
83. いいかもしれない ○ワ^ザワ^ザ イカ^デモ {①イ^ーカ^モシ^ラン ②イ^ーカ^モシ^レン《誘導》}
84. 行かないか ○イ^ッシ^ョニ イカ^ンカ《上昇調》
85. くないか ○スマ^ンケ^ード モ^ッテ^クレ^ンカ《上昇調》
86. くれませんか ○コ^レヲ {①モ^ッテ^クリ^ョウ ②モ^ッテ^オク^レン^カナ}
* モ^ッテ^オク^レン^カナは現在80代位の女性が昔使ったとのコメントあり。
87. 下さいませんか ○スマ^ンケ^ード コ^レヲ モ^ッテ^クレ^ンカ^ナン<男>
88. 行かないと ○ハ^ヤク {①イカ^ント ②イカ^ニャー ③イカ^ニャ}

Ⅲ. 総括（まとめ）

- ① 東西方言の対立という観点で見れば、否定辞の語形は西日本の特徴をあらわすものを使用しているが、そのアクセントは東京式である。
- ② 動作・作用の否定表現に関して、特に世代差が大きい。「行かなかった」のようないわゆる否定過去を表す言い方にイカナダ（高年層）とイカンカッタ（若年層）の違いがあるのはもちろんだが、「ないで・なくて・ずに」といった類似表現にあたる言い方にも世代差がみられる。全世代を通じて用いられ、用法の制限もあまりない「ンデ」のほかに、高年層はナンデ・デモ・ナシ（ニ）を用いている。このうち、「デモ」と「ナシ（ニ）」（ニはあってもなくてもよい）は古い形である。若年層はこれら高年層の用いる語形も用いながら、他に「ナッコ・ッコ・ンクテ」という語形を有している。こうした「使用語形が多い」という点も当該地域の特徴としてあげられる。
- ③ 若年層にみられる「ない」の活用「なく・なくて」を方言内に取り込んだ「ンク・ンクテ」の成立の仕方については、「なく・なくて」を直接取り込むために「ン」を「なく」にあてはめて活用させたという考え方ができる。また、「ン」に赤くて・寒くてのような形容詞の活用語尾「クテ」を接続させたとも考えられる
- ④ いわゆる「ら抜きことば」の問題に関しては、当該方言では、「れる」と「られる」を受け身と可能という意味の違いによって言い分けている。例えば、来レル・起キレルは可能であり、来ラレル・起キラレルは受け身になる。また、No. 64. 65のヨメル・ヨメレルのようにいわゆる可能動詞形では、語幹がのびた形がある。
- ⑤ 意志・勧誘・推量を表す「ズ」は、古い形である。これが反語表現に用いられるとNo. 69行イカスカのように変化する。ズは、こうした反語表現に慣用的にみられるほかは、意志・勧誘・推量の表現においては高年層においても既に衰退している語である。

注<1> 長野県統計協会下伊那支部・飯田下伊那市町村会 平成6年版『飯田・下伊那・郡市勢要覧』による

<2><3> 当該地域を含む近隣地域に分布する「ラ」と「ズラ」のとらえかたには諸説あり、「確実性の有無」とか「確実・不確実」「確定的・不確定的」「単純推量・推量説明」というとらえ方の他、「だろう・のだろう」と対応するなどとされている。

柴田武 「方言調査法」（『日本方言学』東條操編 吉川弘文館 1954）ほか

馬瀬良雄 「方言」（『長野県上伊那誌 民俗篇 下』 上伊那誌刊行会 1980）

中田敏夫 「推量表現」（『静岡方言の研究』中條修編 吉見書店 1982）

山口幸洋 「水窪－語法にみる遠州山地方言のサンプル」（『国語学』34 1958）

（いまむらかほる 弘前学院大学）